

かさを持たずに

夏休みが終わった9月。

4年生のひろみのクラスに、アメリカからマリーという転校生がやってきました。マリーは、はきはきした活発な女の子です。日本に来る前によほど勉強したのか、日本語もたいへん上手でした。マリーは、あっという間にクラスの人気者になりました。

ひろみとマリーの家は、となりどうしでした。いつも2人いっしょに、おしゃべりをしながら登下校します。

「ひろみは、ボランティアをしますか。」

「……。」

「日本の自まんは、何ですか。」

「……。」

次々に聞かれると、返事にこまってしまう。でも、自分が考えもしなかったことを、しっかりと考えているマリーに、ひろみは感心するのです。

ボランティアは？

日本の自まんは？



ある日のことです。

朝からどんよりとした天気でしたが、帰るときになって、とうとう雨がふってきてしまいました。ひろみは、かさを持ってきていませんでした。お母さんが、かさをもって行くように言ってくれたのに、荷物になるからと、家に置いてきてしまったのです。

「ひろみ、いっしょに帰りましょう。」



こまっているひろみに、マリーが声をかけてくれました。

「ありがとう、マリー。助かったわ。」

ひろみは、マリーのかさに入れてもらって帰ることになりました。

「わたしだったら、すぐに声をかけられたらどうか……。」

また1つ、マリーに感心したひろみでした。

しばらく歩いてみると、少し先を小さな男の子が歩いているのが見えました。

「ねえ、あそこにいるの、マイクじゃない。」

それは、マリーの弟、1年生のマイクでした。かさを持たずに歩いているので、びしょぬれです。ひろみは、かさをわすれてこまっていた自分を助けてくれたマリーの親切を思い出し、思い切ってこう言いました。

「ねえ、わたしは、走って帰るから、マイクをかさにに入れていっしょに帰ってあげて。1年生なのに、びしょぬれになって、かわいそう。」

ところが、思ってもみない答えが返ってきたのです。

「だめです。マイクは、自分で決めて、かさを置いてきたのです。」

「どういうこと。」

ひろみは、マリーにたずねました。

「マイクは、自分でかさを持っていけないと決めたのです。だから、マイクをかさに入れたら、マイクの気持ちを、むしることになります。」

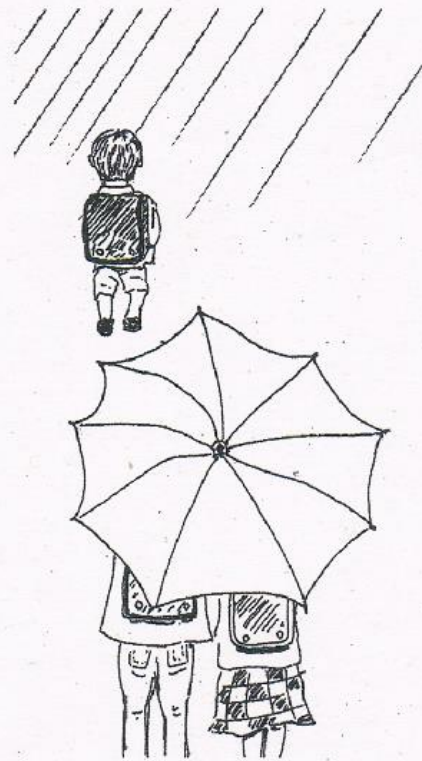
マリーは、いつもとちがう、きびしい顔をしていました。ひろみをかさに入れてくれたマリーとは、別人のようでした。マイクは、ひろみとマリーに気づかないまま、雨にうたれて歩いていきます。

「わたしもマイクと同じようにぬれて帰らなければ。」

ひろみの心の中にそんな考えがうかびました。

「でも、せっかくマリーがかさに入れてくれたのに……。」

ひろみは、どうすればいいのか、まよってしまいました。



道徳シート

2月 日

4年1組 名前()

学習メニュー

10分	課題1	資料「かさを持たずに」を読み、問題点を出し合う。
25分	学習課題「 課題2	自分の立場を決め、話し合って深める。方法「 」
8分	授業のふり返り	話し合いを通した自分の考えをまとめる。

問題点

【学習課題】

<自分の考えと理由>

<討論メモ>

<ふり返り>

回